

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

異変に気がついたら子どもから目を離さない

迷ったらエピペン® を打つ！

→ 助けを呼び、人を集めます

ただちに119番通報

→ 下の症状から重症度を判定し、速やかに行動する

全身の
症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈が触れにくいため不規則
- 唇や爪が青白い

呼吸器
の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

消化器
の症状

- 持続する強いお腹の痛み
(がまんできない痛み)
- 繰り返し吐き続ける



少なくとも5分ごとに、繰り返し症状を観察
経過・内服・エピペン® 使用の時刻を記録

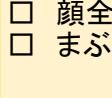


目・口・
鼻・顔面
の症状

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

皮膚の
症状

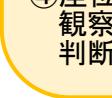
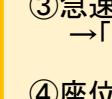
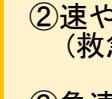
緊急



- ①エピペン®を使用
- ②救急車を要請（119番通報）
 - 緊急時連絡先医療機関に連絡
 - 保護者に連絡
- ③その場で安静を保つ（＊）
 - 立たせたり、歩かせたりしない
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる
 - *安静を保つ体位
 - △ぐったり、意識もうろうの場合、仰向けにして足を15～30cm高くする
 - △吐き気・嘔吐がある場合、横向きに
 - △呼吸が苦しく仰向けになれない場合、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

1つでもあてはまる場合

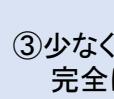
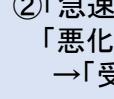
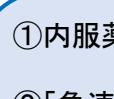
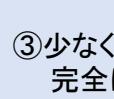
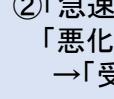
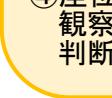
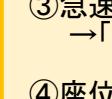
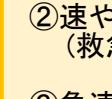
受診



- ①内服薬を飲ませ、
エピペン®を準備
- ②速やかに医療機関を受診
(救急車の要請も考慮)
- ③急速に進行する場合
→「緊急」の対応
- ④座位にして会話をしながら
観察すると、急変に対する
判断・対応がしやすい

1つでもあてはまる場合

注意



監修:さいたま市民医療センター小児科 西本 創

参考資料:環境再生保全機構「よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」

さいたま市民医療センター